



萬延元庚申年二月見聞書  
 一外國御奉行堀藏部正様御切腹實況  
 何者我哉安藤様御切腹實況  
 事に當りては、六月に於て横濱御奉行に於て、  
 引人是、水戸浪士之店先、油を賣り、裏に花、  
 十挺貯有り、六月五日午之刻、吳必人、  
 付後砲を肩げ、芝罘、三十人、  
 余は行、列し、  
 長棒、  
 中、  
 大、  
 六、



14  
 A 124

萬延元庚申年二月見聞書

天  
 正  
 十  
 一  
 年  
 四  
 月

3953





各腰三付一列文路ニ大鼓をツ又を騎引下ケテツ旗を士  
大鼓をツ先ニ号令官ト思交者白又ヲ拵持歩行後殿  
ト思交者ト想ニ行後ニ或ニ千人五隊ニ或又引下ケテ同ノ路  
騎ニ務袂砲亦人種を三右ニ通り三列ヲ不九大鼓ヲ打  
足並ラテ虎ノ歩門ニ押入苗裏歩門通リ横田歩門ニ押  
入安否極ク知れし物也ヲ徳家様始テ盡所ニ何ニ繋りたる  
事モ無心ニテ洋莫大ニ極ク之ヲ振ニテ之ニ定ラテ容易  
孔事ニの者ト一統ヲ名ニ知テ而モ風説ニ「フテス」  
「イヤリ」ニ典ニ清朝ニテ勝並振リ只軍ニラ渡来致シ清朝ニ  
勝軍ヲ吹聴シ且對州ヲ十五ヶ年借用致シ也ニソ在作

是ハ今々清朝ノ軍ヲ誇リ其威ヲ以日本ヲ押ハ對州松前  
ニテ不許ニおめてハ清朝ガ手本トイテ思申りて取方ト  
中々ニツ中ノ陣ニ口ガキニテテテテテテテテテテテテテテ  
殊ニ外歩立腹ニテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
作總々彼之テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
用意ニ事拵テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
筒を大拵持テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
テテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ  
ヤテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテテ







幕を成すもよ、或百年、治世深、柔弱其上と云し武  
若、或百年、大流り、大繩、同を用ひ、急を亦又風  
雨、或可用、或我、或轉、或大、或知、或頻、或音、或揚、或音、或力、  
を制、或騎、或馬、或連、或ト、或大、或矢、或馬、或性、或知、或首、或上、或馬  
ヲ、或カ、或する、或果、或も、或ま、或する、或疲、或ふ、或人、或情、或貪、或お、或る、  
美、或國、或越、或る、或金、或銀、或見、或る、或自、或玉、或勞、或を、或不、或顧、或好、或難、  
宝、或と、或し、或是、或は、或ス、或交、或易、或所、或人、或任、或る、或利、或を、或事、  
知、或る、或る、或る、或る、或る、或る、或る、或る、或る、或る、或る、或る、  
十日、或口、或の、或法、或方、或法、或岸、或礎、或泊、或る、或は、或候、或此、或は、或為、或人  
數、或かし、或室、或守、或期、或年、或成、或メ、或心、或從、或座、或レ、或而、或後、或兵、  
於、或命、或り、或地、或に、或加、或一、或改、或ル、或大、或ヲ、或以、或テ、或セ、或バ、或掌、  
名、或ナ、或テ、或取、或ル、或賊、或也、或我、或ハ、或不、或取、或メ、或日、或本、  
イ、或ギ、或リス、或テ、或ラ、或コ、或シ、或ヤ、或を、或名、或テ、或振、  
大、或畧、或ハ、或此、或ハ、或中、或ハ、或神、或ハ、或惜、或キ、  
エ、或リ、或ヤ、  
右、或ハ、或座、或實、或ハ、或不、或知、或任、或伊、或約、或米、  
多、或付、或根、或る、或ハ、或為、或る、或も、或可、或者、  
一、或ハ、或

於命り、地に加一改ル、大ヲ以テセバ、掌ヲ指カ知シ然リトスルモ  
名ナク取ル賊也我ハ不取メ日本ヲ道守キ麻ノミトテ  
イギリステラロシヤ、或を名テ振テ不取可也代ト  
大畧ハ如此トヤ、神ハ惜キテ共ニヤ  
エリヤ  
右ハ座實ハ不取任伊約米久安と信之也  
多付根くるハ為るも可者



今に於新部尾列中、格に内田番尉馬守  
辰左衛門通房作左衛門加左衛門同役ありて、又直  
達与は作左衛門

一、水戸浪人横濱弘坊、故風は、今水戸  
殿に作左衛門、故主として付法、左府向し、故々、吹備  
至前、吳、夏、冬、春、中、を、速、人、数、是、也、且、由、二、并  
給、法、下、五、部、を、右、付、日、雇、人、数、の、差、を、事、付、取、用  
令、密、用、取、殿、人、数、の、少、多、を、把、儀、事

右、通、々、々、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
右、通、々、々、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、

心、為、公、用、意、の、時、也、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
し、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
右、通、々、々、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
し、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
右、通、々、々、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
し、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、

風、文、書、左

右、横、濱、弘、坊、吳、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、  
し、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、し、付、付、公、儀、に、付、也、







惟子亦也至正三弟用其取根各用其心也我始以根心  
得焉之會交事之乎也此意不之違也我大絶于不用意  
有之也乃馬中向之是也吳吳馬生者一取之向也此  
時之有也也此意之馬生者一取之向也此  
何事也事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
二事子馬出馬之弟馬生者一取之向也此  
戶生人取馬之弟馬生者一取之向也此  
振之振之也事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
可仕方之也事之也

一先也事之外國奉行堀藏部事馬生者一取之向也此  
之事也事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一吳人、蓋民也、事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一矢砲括文、一取、腰、事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一途申也、孤苗太被、事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一水戸浪人、風評、事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一南、一、松平、守極、事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一右、水戸、直、事之也事之也事之也事之也事之也事之也  
一三州、百姓、事之也事之也事之也事之也事之也事之也



金八百五十兩との言出しに銀五百兩に原平中を金  
五百枚と折銭付し其之を正宗と在路なる長サ或は四寸と云  
見事ミア之追銘に左と通るに

大同秀吉 朝鮮為征伐是 劍典清心

右と通之夫を根子次丹なる所實人も其成或は丹先澄定  
とヤる之此り不素人の澄定と諸人の而とも今言作  
二付目及ふ下等つまもヤト伊祐兼但頭官主各と換有  
時澄定と上もし中此夕私若と未おれに伊退出東に入  
し付今早朝持とま是も回報なる伊目なる市院江作  
守つづま血中の中阿弥つ見え世のあぬとて及之實は稀

物より何ヶ何難難供<sub>ニ</sub>好<sub>ク</sub>為<sub>ニ</sub>ヤ昔世初来より治りて  
當時より外冠るも内乱に始りて来り中にも有き事  
つまも是のよハ多し人々世とあぬ中しあはる伊後  
ら以上 上りりヤ

申上りりヤ

一内藤紀伊守殿宅に諸の御事伊守の治ま付

松平下總守殿  
酒井雅士殿  
小笠原信康守殿



松平恭之市殿

此寺即少しお中のももろくは身時堂法月人殿と名  
根お達と多し可なりと云然院の寺は乃々事

同日

一 對馬守殿 流々やのまの守七の屋土付

一 阿蘭陀人宿寺 松平和泉守殿

麻布伊回寺の宿寺 松平孝三守殿

一 伊園寺 西人宿 石川之殿守殿

日不西庵の正泉寺大塔寺

一 今キリス人宿寺 阿部伊豫守殿

多路東洋寺日不續上洞庵

一 崇福生人宿寺 戸原上徳女殿

赤目根接運所

一 亞墨利か人宿寺

麻布一ツ長福寺

右此度ゆにお中の原も五つ寺殿と唐人殿は  
高根うは後と番細て美ハ外も春行りおは  
た

別殿達し

此寺中良く神は者多し数に然る及礼婦と  
お中

ももろくは身時堂法月人殿と名  
根お達と多し可なりと云然院の寺は乃々事



此度外少人共起る所は作付し余は得る人取らる  
古事なるも國に於て治しむる事多し法は是れ人  
成夫お者客由は居る所なる事也此は其外  
國事は可く然る

一 安土孫根なる所也

阿部伊藤守殿

此年中少くも亦もあしころ英吉利人宿る事  
と少ゆる日不候き上回庵に於て商人取らる所  
も其も亦所口伊とるも日根も亦もあしころ  
と少ゆる事いおむ事也可く然る事

阿部伊藤守殿

英吉利人宿る事上回庵に於て商人  
取らる事いおむ事也可く然る事

申上りし如

酒井一若将守殿  
右代 阿部伊藤守殿

右年未精和事御後再新信重と御用五和且之度  
説候し御使とも作付し付仕格と説を以て和後  
御後知 由系在江下と名取美奈と名取老中列  
大和守殿  
此は其外少くも亦もあしころ英吉利人宿る事  
と少ゆる日不候き上回庵に於て商人取らる所  
も其も亦所口伊とるも日根も亦もあしころ  
と少ゆる事いおむ事也可く然る事



日人  
日人

右之度所征知塔より如地不陸夜山道より石倉もこの  
千之上多都所征知塔ともお前より義兵より當年分米  
必兼儀二條所征知塔より右回帝列室向所征知塔  
七之より所征知塔より

右所征知塔より事者より

和室様所下向分る所征知塔より  
公方様所下向分る所征知塔より

三百石

下メリカ

外正

新見豊右守殿

所如地

村相次路守殿

三百石所如地

所自所 小栗豊後守殿

右は所征知塔より外陸巨匠より中より所征知塔より  
一のり

一依る所征知塔よりカカ所征知塔より周防中よりカカ日本  
便者より所征知塔より昨年分軍艦陸軍馳走して舟者より所征知  
所征知塔より所征知塔より所征知塔より所征知塔より所征知塔より  
所征知塔より所征知塔より所征知塔より所征知塔より所征知塔より  
所征知塔より所征知塔より所征知塔より所征知塔より所征知塔より







む大庵の最早の出来は、東の魯西亞軍艦が北へ出た  
し、南へ航来日本又唐の通行便に、イギリスの三つ船が  
攻取北方向地、新金山丹邊を横領し、オロシヤの軍  
艦を出せる者といふ考と見え、是は最早オロシヤと  
イギリスと朝鮮日本航来する地を争つ、基山の争い  
實に世に争つ、根本と見え、日本航来は合戦の  
街、このお成子、イギリスは最早オロシヤアメリカの航来地  
の傍は、向の積り、イギリスは、出傍は、北の積り、天  
竺、ベンガラ、オロシヤ、元より、西へ、北へ、南へ、東へ、  
是は、北地より、軍艦を出し、天下を争つ、積りと見え、  
ヤム

天下を争つ、ハカロシヤ、三つ、遠言も、イギリスの軍艦  
と、航来、お成子、北へ、南へ、東へ、西へ、  
アメリカ人、近東、北へ、南へ、東へ、西へ、  
小園内、北へ、南へ、東へ、西へ、  
北へ、南へ、東へ、西へ、  
焼亡、本丸、北へ、南へ、東へ、西へ、  
角の、北へ、南へ、東へ、西へ、  
焼亡、北へ、南へ、東へ、西へ、



堀織部西條 十月七日 御切腹成聖三ノ日 公儀公御  
黄馬左三十五

十月八日

相筆 并 外國奉行 兼 世帯

金五枚 御付 願之

堀 織部 正

兼代 津田近江守

右、本年秋實ニ出穂也却賑表地所開拓ニ業ニ付る也  
初度精入石扱旦外玉所用ニある多爲ニ御捨棄爲折也  
新し月付也言於美々業ニ付る所老年列坐也取取也  
取捨御儀御願之頂戴  
右織部正條、兼代、高次郎、御願之、御願之、御願之、御願之

地カテ、トモニ、同ニ、トモニ、出所、ニ、取、付、外國、事、行、ノ、業、帯、ニ、  
ソ、中、ノ、地、所、自、給、ト、先、便、中、ノ、人、を、お、し、キ、リ、ス、人、是、能、  
此、方、ニ、高、利、ノ、事、ニ、成、ル、心、所、自、由、ニ、利、也、ト、お、成、ル、此、方、也、  
又、取、付、刑、取、成、度、方、是、近、出、開、ノ、カ、ラ、フ、ト、ニ、是、玉、ニ、所、後、  
お、事、ノ、益、地、也、可、後、付、私、後、中、ノ、爲、何、何、作、付、ル、也、  
共、中、上、通、お、成、度、と、推、ラ、レ、作、付、ル、也、所、後、中、ノ、事、後、  
ニ、お、成、所、懐、激、ノ、事、ノ、所、退、也、ト、所、老年、安、取、付、馬、也、  
爲、入、林、ノ、事、大、福、ト、事、免、角、也、通、ノ、依、不、お、事、  
ニ、所、以、レ、也、所、後、事、金、所、因、取、ノ、事、ノ、事、ノ、事、  
大、力、ノ、事、ノ、事、ノ、事、ノ、事、ノ、事、ノ、事、ノ、事、ノ、事、



此橋後所好し傳方に事自然外に出るは亦こは成り成りたる  
中も地味多し事一なる中なるは其も南南可致しんを  
眉よりより大しし傳方に事共しん事一は保陸に法家  
傑し傳方に事大各極言一橋傳方極言是水府者名極  
傳方三里に事教前傳方極言是も井保極出壯し其山因居  
當時より免支極出なる河路左なる耐一長井云葉山此  
丹波守岩崩肥信守大久保伊勢守水成筑後守赤木  
傳方二に事いづきも人至し傳方二に事一も極言は成り  
りも成り極言に事一は傳方一河路土岐の事極言水戸極言  
因居に事思えなる西匠在太久保の傳方免長井岩崩の

流部を任初米に在上一追りの家初もは下りなるは傳付  
水成極言當時西を傳方なるは在外も傳方葉葉に事一も命や上  
度家二に事一なる事多極言中極言なる事一も命や上  
傳方西匠なるは當時傳方一流りおししをやり左極言左極  
し氣極言をまわり他藩極言生も一葉命不致らばおまを葉も  
物入多しなる事不任極言なる事一も命や上

十一月十六日



英國新用紙

皇萬延元庚申年

イギリス

西國紀元千八百六十年

英佛二國、大清ヲ伐ツル事ニ

後主威豐十年

今年五月廿八日北河ニ於テ二國、兵大敗ヲ取ル、報之英國

ノ大將「ロール」元ケシ同シク船手ノ大將「アラフテ」アラリナフレ

支那北辺「タリヤ」カント云所ニ許多ノ軍艦集船ス

西軍、兵卒九四万五千ト称ス西所へ、蒸氣船ハ我五時

ニシテ往復スト云去ル六月廿日英軍ヨリ四五艘、

「コシボウ」

是蒸氣船ナリ、浅キ処ヲ自在ニ走ル云

ヲ登ルコトハホウ

「ベ」タシノ港口ヲ測量ス清軍ヨリ砲ヲ放ツ、雨ノ如シト云

トモ比中ラズ船ハカハルナリ、同廿三日軍艦許ヨリ又寄

来ル得船ハ三里沖ニ碇船マ余船ハ皆港ニ来リ砲ニ来

リ砲ヲ放ツト云ハモ更ニ應ズ若シモ忽砲臺ニ至リ

見ル三人モモトモ因テ皆、此砲場ニ上陸ス此水是キヨリ

近邊ニ清水アラント五十人ナリ水ヲ尋ル所忽四五百清

卒来テ取圍ミ皆老キ所ニ師ヨリ援兵許多来リ

死ス者僅ニ十四五人清卒四百余ヲ打殺スト云此所ヨ

リ二里許隔テ一大要害アリ衛卒四万余騎、兵一万五

千七月五日此處ニテ合戦ス、我ニ時許清兵白旗ヲ出

シ悉ク降人トナリ終ニ棄リ取タリ英死スル者百人

佛死スル者一百五十余ニシテ清兵死者ハ万ヲ以テ



教フト云其故は去年英國ニテ各明スルアムスツロー  
シユート云鉄砲遠所ノ利益ニテ畏ルベキモノナリ此  
器我ニ里半内外ニ達シテ更ニ虚死ナシト云夫ヨリ直チ  
天津ニ推寄ルニ同所モ皆降ニ出ル是ニ因テ順天府  
帝王始メ君臣悉ク滿洲ニ走ル今英佛北京ノ政道  
ヲ布クト云流石ノ大境モ一筆ニシテ亡滅ニ及ビタリ尚  
復報ヲ待ノミ

客歲ヨリ支那海岸ノ各所守衛之ナシ強盜被御  
シ士民困難シ盡ク各國ヨリ警衛スト云  
一玆説ニ前明ノ嫡孫ト称シ七八年ノ前ヨリ廣東以

西ヨリ義兵ヲ起シ漸クニ蔓リ既ニ南京ヲ取り今居所  
ト定メ自ラ皇帝ト称ス兵卒許多アリト云内地田  
七八分ハ倭吞スト云上海ニ使ヲ指送り西洋諸国ト和親  
條約シ内地任居随意タルベキヨシ申シ遣スト云ヘトモ一  
同ノ返答ニ南京有君ハ是ニ義兵ノ後ト云フモ北京皇  
帝ニハ逆徒ナリ先國內ノ事ヲ仕舞ヒ復如何根トモ  
致サント云ウ南京大ニ怒リ上海ニ軍ヲ率テ指向英  
一千佛一千花旗一千ノ兵兼テ護衛スルヲ一戰ニ  
退ルト云フ是明孫ハ一時ノ英傑ノヨシ返ル所ノ事ハ  
皆破事ト木石銅偶像ヲ破碎スト



云々衣版容儀ハ前朝ニ復古スルナリ

萬延元年九月望於鴻漸齋雨窓下

皇萬延元庚申年

千八百六十年五月十七日

華盛頓新聞志大意

一その日ステートホテルにてとるあり日本使節行方り  
 不備疑の後並に相礼時刻を詰り来れり  
 一イギリス人の旅館に而使節衣服相度より来せり  
 一哲士蘭ホーテモ森悦の振子より結髪を来りも華盛頓念入り  
 以てそがごとし

一既十時より行列を待て中央に使節の印を建て使節ハ

馬車車駕籠駕籠小亭り通詞名村トホルトセントいえるをも城

小亭りある縁あり右旅館からフレシテントの城近ハ申時ハ

距離よりきこえられたる人々を扈從、又を疑問する小亭り薩

戸吉江戸ニ年ニ未府の時ハ二番へてまゝおどろくはれども市中ハ

米人ニおして例外ニゆりしを

一此日不備疑の振ハ金浪青貝を塗りて、炎なり又

行列の振子ももるり

一途中ハ見物人モ多量集りて、此家の窓ハ人頭滿ちぬ

例の家根近も蟻附し如く中途ハ金座の女を乗せり



あして難道と雖も大抵帰くるなりフレシテトの城亦三狭  
柵を樹くより城側の人まで柵も及ぶ處なきをば集り  
或は狭柵の尖端も登り在るしよのハ危き振るる事  
一使節ハ大門を入りホロイトホイス 泊船の前ふるむやうにし  
コレシトの城中にも多人数あり難せり士は中頃末の  
室ハ人満ちしより城側をブカシ君もせり水陸軍の  
士及び外國のコレストル等後に行たり

一十二時の頃巨室の中央の列を穿しより以名居同馬し  
衣裳なり彼をよ死し神いて吾未の終中ゆるされ  
しも名居人の望望るより城側フレシテトの也半し時を

稍静まりし根コレシテトハカヒ子ツトの室を連来り  
城側十二時の頃中央の戸を開き入る是より先コレス  
レシト 夫人のト見ゆる 居立せる最極の處に止まる

一暫時の後戸再び開けしより今也別地球上の何れの處  
も弱きを致した事未他邦と通信せざる帝の名代  
として入来れり須臾にして之人の使節一あり室に入る  
小足子て歩をと急に彼を頭を曲げ又再び進み又既を垂  
れ終コレシテトの處と近づき城側ハ懸垂の柵にて  
まわれり

一五種 柵力友才等しり成陸若田師を合立國



函府小館の書翰の納り紙を携り（カビテ）和エホンド  
以下三名の伴も連年九の坊の坊（皆次第に）今也  
ツ第一等の使節の明々不遠徴せる聲と上げ自玉の語  
と云テフレシテント不致一かの輝を述べし坊輝を名村  
ホルトコニ決通し再の坊者よりブカサレ向の右日本  
人の敬語を詳言の伸より右に在る書翰の紙は各村  
が居りて第一等の使節し不致一かの輝を名村  
小色ミ書けりその名也してこれをフレシテント不致一  
フレシテントに又これと云ふ不致一かの輝を名村  
使節の先不致一かの輝の神はて己が座に著りり又再び

フレシテントの先不致一かの輝を名村  
譯し易き短語を名也して使節使節も短語を再  
答せる不ブカサレ近々各人向の女を携りて初  
擡せり使節の使節一言をも致せんして坊輝を名村  
向りゆも初らざりしフレシテントの次名も来りしれども  
此中不列るる也

一使節使節と云ふ名も致り名も室中に入来り  
フレシテントを説ししれども其を携りて名も  
見へしり

一右進退の次が詳不悉、一紙



但フレシテントして感ある振るふて干もたに派在せし景況に此場の第一ありて次日本入感恩の侍次ぎ衣冠の光彩次水陸軍士の号衣有る侍次は侍親群集の人の愉快の振るふ等これと記するに是る〇其の直接のるは四半時ありて終る便帯もウレニルトの旅寓ふ帰あり

便帯の衣冠美を感するを詳小記也

一日中人より帰報の何るをももるさにして終るの事一讀を讀し念且想像あるの侍之

一少年トムシトいえるを日本人るん誰なる能く其事ふ著

意ある性あり金を一階に呼び彼が天候純粹の心といて言ひ吾フレシテントと見えたり彼を笑えのふあり又曰嗚呼吾もフレシ人々をいへりや

一十九日晚米二医田名と宮崎村山川奇小對し一医術の試術をるる石田十郎之が譯官より初め二医術とあるの示阿を問ふ用法哉那陸水張セマンシー十梅毒産料長砂初稿盡惑の況其の後あり

北條同音を記す頗詳密

一翌二十九日セウレタリオフストを親するは十四時コロより長友三人士な五人譯官三人ウレニルトの旅館



より奈す此の時も久ねくもるゝのよし此セリレメリオフステ  
トヲ観る際ハ吾輩馬リリと云へり初めゼラレルカスト云ふ  
人の家小つり再び此家に向つて金事あるとされり此云ふ  
見物へ多く往來れり殊に婦人多くし此云ふレレトの  
次友カヒ子ツ右水陸軍の兵士の外も全権官も来り  
日本へとホウハタレトマテで連ね来るユモトルタ子ル  
も逢ひ互に遊遊の悦ひを告ぐり此より舞踏其の  
ふるりも女巧男巧も舞いおとる此快捷なるを見自云の  
嬉ふ異なるを目し耳を傾けて感しあり此は十時ハの  
して帰る館中お在り日本のお祭風として毎年ハ

外せし一免きりし一ちを

一 日坊拜室カレケンシ使節に向ひ米玉の火兵發砲の  
演技を解んと云ふて此兵を此家の演習せり日本人は  
才術を感ししう小栗君後守ハ弟三守の使者之一ハ小  
作兵巻心を用いし又彼能刀劍をたふさる術に精し  
○指揮官クルゲン日本人を子ウヤルド兵多國小連  
れ此やしり日本へ大技をさぶの志有ま近日必  
るらる

一 日本人の年貢を問ふるふく沈黙の後一億トレル  
斗ふて是れ相中一果矣るく其三分ハ友おねむ但し中世に



精申り教へしといふ事

明治元年庚申九月杪本近江守極中殿分丹波守  
福知山百時一揆二并栢回小指京伊藩何

集し書師写

以爲積中兵統の子成也然六月廿一日に事と西堂廿二日  
福知山一揆の事の中述に中後中述の事番子の教片見  
御右殿の御頭等足輕雜之共百二人余出法と至又同日進  
余は許強初と發也廿一日夜中時又と物類生約四と痛

此目附佐と茂たるは是控雜之百二人余二番手並置候と申す事  
也此物に平よりも備後諸の教に作分の御用意二番并  
利川世と中平と也三つ後と云ふは此目附と西用と云ふ事  
出法也也諸人組言ふ事也漸九方夜中時江作付  
手と夜八時付也三川也廿二方夜中時着栢原八里  
手と夜一宿廿四時福知山栢回一揆に候と申理解し知  
十三ヶ条と孔度と申言漸お治り廿四六つ付川也也  
立等栢栢更の心字時江栢栢中一日も不寐是夜  
安泊諸事大に事跡水且又川也也強と内福知山栢城下  
町近と事り云一読と知町八七方通り栢崩と注送矣

精三



大崩し衣敷て外に居る者も久位り切り更長に大崩坪  
に入れひうて安座市川に据り産物も多し産物も多し元  
也一礼ぬ紛糸斗る八子五福の如いふ所切ふ産物も上  
大手のつたは用れられ根れを焼斗りいへ焼き金  
根物杯る所従事何万ある中産物も多し戸際子  
直も物も多し一たき付のどし細く割し右付三万二  
石に於て城下町は江戸焼路と通る所是果不乾金根  
瓦も多し従事地面も多し是片付ともいへ江戸焼路灰  
を切きし根の山のどし〜従事し其中に積るを〜細く細  
く小碎きかき〜元産物も直切り用〜其の中〜其が口つ如

馬の毛掛矢も多し産物も多し市川宅に産物細く小チ  
碎き産物も多し其産物〜其産物〜其産物〜其産物  
〜其産物〜其産物〜其産物〜其産物〜其産物〜其産物  
市川に細くをいふ日根打法〜其産物も多し其産物も多し  
一埃の人の如いふも〜其産物も多し其産物も多し  
いふ〜其産物も多し其産物も多し其産物も多し  
い大産物も多し其産物も多し其産物も多し其産物も多し  
其産物も多し其産物も多し其産物も多し其産物も多し  
牛産物も多し其産物も多し其産物も多し其産物も多し  
其産物も多し其産物も多し其産物も多し其産物も多し







町のそとにその外なる大弱りたるれん美りや  
しるよそを極やあしり併大書しるやあり他  
云い置しり用後りしりあつことよ

つりあつこと